

ウォーカブル KONGO NEWS

vol.1

発行：R6.3



KICK OFF EVENT

ウォーカブルKONGO勉強会を開催しました！

金剛駅周辺において推進している「ウォーカブルな空間づくり」についての知識を深めていただき、「居心地の良い空間」について共有するため、ウォーカブルKONGO勉強会を開催しました。

開催日時：令和6年1月28日（日）10時～12時
会場：富田林市金剛連絡所 2階ホール
講師：今村 謙人氏（カモメ・ラボ代表）
参加者：32名（10代～80代）

1 ウォーカブルKONGO趣旨説明

ウォーカブルKONGOは、市民の皆さんにとって、楽しい時間やお気に入りの場所、人々とのつながりなど、**居心地が良い場所「+1」**(=多様なアクティビティが生まれる“居場所”)を金剛駅周辺に**点在させる**ことで、新たな魅力を創出する取組です。

2 話題提供「居心地のいいまちとは？」

全国様々な地域で屋台を活用した社会実験を数多く実践されてきた今村謙人氏（カモメ・ラボ代表）からご自身のご経験や実践事例を交えて話題提供をいただきました。

◆ 話題提供の概要 ◆

「居心地がいい」とは

- 自分の好きなことを誰にも邪魔されずにできるというのが、「居心地がいい」ということである。
- 家の中でできることから延長して、街で実践できる「居心地がいい」を考えるとところから始める。

「居心地いいまち」を実践するうえで大切なポイント

- ① 商売ができる、表現できるということ。
- ② 個人の活動が場所や街を面白くしていく。
- ③ コミュニティを作らないと継続していくことは難しい。
- ④ 実験から日常へ日常を意識して実験していく。



街や場所を面白くする

- 街を変えるのは制度やルールではなく人であり、自分の好きなことを街中で実践することで、結果的に街が面白くなる。（例：橋の上の屋台、自転車屋台によるホットサンド販売、古本屋台など）

継続することでまちにつながる

- 継続していくことでそれが当たり前の風景になっていくと、街に受け入れられる。

日常を意識して実験

- 実験してみて、良かったものを日常でも実践できるように整えていくことが重要。

最後に

- 「居心地がいい」空間は誰かが用意してくれるものではない。
- 富田林市は「居心地のいいまち」を目指しているため、自分のやりたいことを実践できるタイミングである。

3 グループに分かれてワークショップ

「あなたにとって居心地が良い空間、楽しい場とは？」をテーマに、チームに分かれてご自身の経験をもとに、「どこで・何をしている時が居心地良いか」についてを共有していただき、金剛地区でも実践したいという期待感が高まりました！

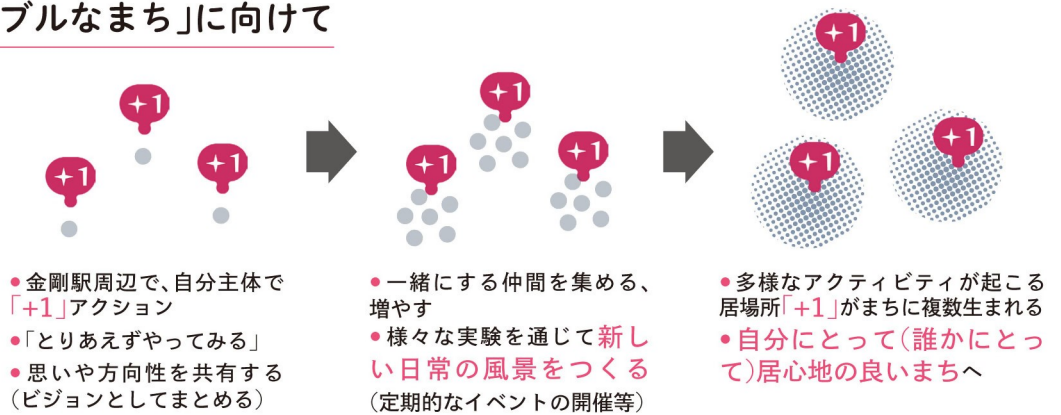


居心地の良い空間の要素(参加者意見の抜粋)

- だれと** : 1人(自分自身)、複数人(家族や知人、仲間、知らない人等)
- なにを** : ぶらぶらする、散歩をする
 飲食をする
 (コーヒー、お酒、バーベキュー、ピクニック、飲み会、食べ歩き、飲み歩き等)
 キャンプ、焚火をする
 遊ぶ、遊んでいる様子を見る
 音楽を聴く、演奏する 他

4 クロージング・「ウォーカブルなまち」に向けて

今村氏からの話題提供やワークショップを通して、「居心地が良い」は人それぞれで、場所だけでなく一緒にいる人やコト(出来事)にも影響されることを再確認できました。「ウォーカブルなまち」の実現に向けて、右のように進めていきます。



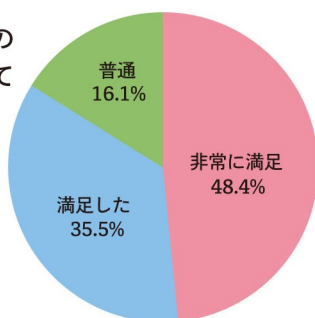
5 今後の展開について

	R5年度		R6年度			
	～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
検討チームの構築・運営		★ウォーカブルKONGO勉強会 募集 ①	②	③	④	⑤
推進チームの構築・運営			募集 ①	② ③ ④	⑤	⑥
社会実験の実施				●		
ビジョン案の策定			●			

● ビジョンのお披露目

6 参加者の皆さんからの声(アンケート結果)

(1)勉強会全体の満足度について



(2)金剛地区におけるウォーカブルな空間づくりについてのイメージ

